

子どもっておもしろい！ 保育はいい仕事

「正しい幼児教育」はあるのでしょうか

教育、保育、子育ては時代によって考え方が違う

国、地域によっても違う

専門家という人たちも、専門分野で意見が違う

子どもの発達データは平均値である

原点は子どもを知ることから

どう育てようかではなく、どう育とうとしているのかと視点を変えてみる

○子どもの身体や顔の表情をよく見る。

子ども一般ではなく、何歳児ではなく、男か女かではなく、目の前にいる

○○ちゃんをよく見る。

言葉が未熟な子どもたちは、表情や行動で内面を表現します。

○子どもが思っているだろう事を言葉に出してみる

表情から読み取った、その子の気持ち（想像レベルです）を言葉にしてみる。

「たのしいね！」「くやしいね！」「かなしいね！」「怒ってるんだよね」等

このことが心に添うということです。

気持ちをわかって理解してあげるのではなく、問題を解決してあげるわけでもありません。その子の気持ちをとりにあえず肯定し共感することが、より添うことになるのです。

以上の日々の繰り返しの中で、ひとりひとりの思いや個性、育ちが見えてきます。それだけではなく、何かあったときに寄り添うひとがいることで、感情が落ち着き冷静に考えられるようになる。そして、自ら一步踏み出すことができることを知りました。

これは子どもだけでなく、小学生も中学生もおとなでもそうなのだと気づかされます。

子どもっておもしろい！

言葉を使わない心のコミュニケーション力には目を見張ります。
子ども同士の関係のなかで、心がちゃんと練られていきます。
5歳にもなると言葉の表現力が身につく、子どもたちどうしの本音ミーティングも成立。言語力や思考力がどんどんついていきます。
あそびを通して、ちゃんと自分が発達するためのカリキュラムを進めています。立って歩けるようになってから、走れるようになります。かくれんぼもできなかった2歳児が、かくれんぼや鬼ごっこができるようになる3歳児。4歳になると「だるまさんがころんだ」や「氷鬼」などルールを認識し合って、やがて5歳児になるとそれは複雑な鬼ごっこが大流行。

体力だけでなく知力も含めて自分たちの成長にあったあそびが流行るのです。
子どもは自らちゃんと大きく育っているのです。群れの中だからこそ、個人が豊かに育つのです。保育は子どもの育ちを援助する仕事です。そこには、子どものドラマがいっぱい。子どもがどうしたいのか、どうするのか、子どもを信用して委ねることでドラマが生まれます。その場に立ち会える私達は幸せ者です。

ちなみに・・・

添っている場合ではないこともあります

添うことだけが必要なわけではありません。
添うということは子どもの思い通りにしてあげるということではありません。
おとなとして、自分として、許せないことはきちんと伝えます。まさに自分自身の価値観を問われる瞬間でもあります。子どもは今おとなのメッセージを理解できなくても、ほんとの怒り、涙、愛情は時を経て必ず伝わっていきます。

子どもの心に添って、子どもが見えてくると、子どもってなかなかたいしたもの。共に誠意のある関係を持ち、共に育つ関係でありたいと（共育）願っています。育てているようで育てられている自分を感じます。

保育っていい仕事です！

柴田愛子